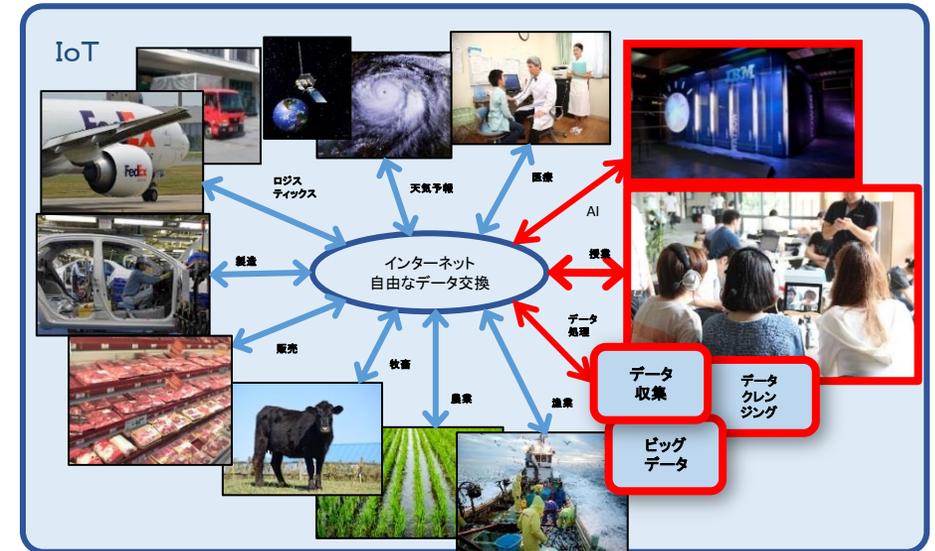


「AI、ビッグデータ、IoTが進展することにより、社会の産業構造や仕事の質が変化することについて認識の共有化を図る。」

- シングularity (2045年)

- 米国のコンピューター研究者レイ・カーツワイル『The Singularity Is Near: When Humans Transcend Biology』中での仮説
- シングularity (特異点)とは、そこから先のシステムの振る舞いが予測不能になる。
- AIが技術的シングularityに到達し、人類の文明に計り知れない変化をもたらす。



- AIやロボットにより今後消えていくと言われている職業の一部

- 保険の査定担当者、銀行の融資担当者、スポーツの審判、不動産ブローカー、会計士、監査人、レストランの料理人、レストランの案内係、ホテルの受付係、小売店の店員、タクシー運転手、テクニカルライター、農業従事者など

シンギュラリティ！ 大変だ、生き残る仕事は？
仕事の話より、もっと深刻な問題がある！

《10年先の教育被害者を増産する大学教育》

AIの訓練方法：

- ①大量の入出力の関係をAIの訓練用にクレンジング
(質問に対する正解を集めた教科書作成に相当)
 - ②クレンジングしたデータでAIを訓練(正解理由は無視)
 - ③AIは質問と正解の関係を機械学習し、質問に対する正解の候補を評価値と共に出力
- この方法は例題や例示をし、問題を解くと正解を提示する教育と同じ！

日本の集合教育はAIと同じ土俵で学生を訓練(してるかな?)

AIを使いこなして新しい時代を切り拓く人材は育たない!

創造的人材を輩出してきた日本の伝統的考え方“守破離”を再認識する時
討議：技術的特異点を前に、①大学という組織体が産業構造や仕事
の質的变化を認識でき、②教育を改善できるだろうか。

